

令和6年度 学校関係者評価 報告書

評価対象期間 自：令和 5年 4月 1日

至：令和 6年 3月31日

令和 7年 3月



学校法人駿河台学園 駿台法律経済アンドビジネス専門学校

学校関係者評価委員会

目次

1. 概要と実施状況について

1.1 目的と基本方針	1頁
1.2 学校関係者名簿	1頁
1.3 実施状況	2頁
1.4 評価方法	3頁

2. 報告書について

2.1 表の見方	5頁
----------	----

3. 評価結果報告書

3.1 総評	6頁
3.2 評価一覧 (評価提言・今後の取組)	7頁

4. 学校関係者評価委員会議事録

4.1 第1回	10頁
---------	-----

1. 概要と実施状況について

1.1 目的と基本方針

学校関係者評価は、学校評価という協働作業を通じて、学校と学校の関係者(企業、協会、学校、OB等)がお互いの理解を深めることを目的とする。学校評価の基本である自己評価が、学校に関係する方々から違和感なく受け入れられ、自己評価の客観性と透明性を高めることにある。また、共に学生の将来を考え、それぞれの立場や視点から意見を出し合い、よりよい学校作りに寄与することを基本方針とする。

1.2 学校関係者名簿

学校関係者評価は、関係業界、高等学校、卒業生、校長推薦による有識者に委嘱した。

氏名	属性	選定方法	所属
山本 慎一郎	企業	企業推薦	墨田やまもと法務事務所 所長
森 大樹	企業	企業推薦	大樹総務事務所 所長
阿部 祐太	卒業生	学校推薦	株式会社ライトハウス
筒井 揚介	教育知見	高校推薦	駿台甲府高等学校 副校長
松原 仁	教育知見	校長推薦	京都橘大学工学部 教授 情報学教育研究センター長

1.3 実施状況

第1回は、自己評価の説明後、前回の学校関係者評価委員会の意見を踏まえ、更に検討すべき事案についてご討議いただいた。実施内容は下表のとおり。

会議名	令和6年度 第1回学校関係者評価委員会
開催日時	令和7年2月18日(火) 16:00～17:30 (1時間30分)
場所	本校2階 26号教室
出席者	① 企業・有識者委員：松原委員・筒井委員・森委員・山本委員 ② 本校委員：中澤三雄(校長)、松本栄(教務部長代理) 事務局：納屋健(教務部長代理) 委員と兼任
欠席	阿部委員
配布資料	☐令和6年度学校自己評価報告書 ☐入学案内書 ☐令和6年度学校関係者評価シート
議題	1. 挨拶 中澤校長 本年度本学の取り組みについて説明し、開会挨拶とした。 2. 本日の出席者紹介 ① 事務局より本委員全員が紹介された 3. 本委員会の進め方(事務局) 4. 学校自己評価報告 ※校長より自己評価報告書に基づき報告を行い、委員から意見を聞き取り、本校委員がそれに回答する形式で会議を進めた。 5. 解散 17時30分

1.4 評価方法

1) 学内自己点検・自己評価の実施

学校関係者委員会の実施に先立ち、『専修学校における学校評価ガイドライン』に沿って、自己評価の点検項目は、10分類37項目とする。『令和5年度学校自己評価報告書』には、各項目の自己点検実施状況を記載し、自己評価ポイント（適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、無該当：0）を示した。また、①課題、②今後の改善方法、③特記事項を記載し、学校関係者評価委員に提出した。

2) 学内自己点検・自己評価の報告

学校関係者評価委員会では、『令和元年度学校自己評価報告書』を用いて、学校関係者評価委員に対して、各項目の自己点検実施状況及び、評価ポイント、根拠、課題、今後の改善方法について委員からの提案を受けた。

学校自己評価報告書 記述例

本表は以下の構成となっております。

基準2 学校運営

点検項目【2-2】運営方針

【チェック項目】

- ☐ 運営方針を文章化するなど明確に定めているか
- ☐ 運営方針を教職員等に周知しているか

① 大項目

② 中項目

③ 中項目における本校でチェックをすべき項目を記載

④ 中項目の点検項目に対して、本校の取り組みについて記載しております。

⑤ 中項目を評価項目として、自己評価をしております。そのなかで評価委員が課題としてあげている事を①に、改善方法があれば②へ、とくに記載が必要な事項は③に記述しております。

本校は1970年(昭和45年)の学校創立以来、創設者の理念、すなわち駿河台学園の理念である「愛情教育」を学校……の理念としてきました。

「愛情教育」とは、未来を育む教育ということでもあり、本校で過ごす月日は、教員、職員が学生一人

■駿台電子情報＆ビジネス専門学校「学校自己評価報告書」_平成26年度版_P.6

No.	評価項目	適切: 4, ほぼ適切: 3, やや不適切: 2, 不適切: 1, 無該当: 0
【2-2】	運営方針	④ 3 2 1 0
	(省略)	
【2-7】	情報システム	④ 3 2 1 0

① 課題

- ・【2-3】計画書は収入予測を基に作成される。収入が計画時より多い場合には、支出予算をそのまま執行できるが、収入予算が少ない場合には、予算カットをされるなどの措置がと

② 今後の改善方法

- ・【2-3】支出予算については、年度毎に十分精査をおこなうようにする。

③ 特記事項

- ・
- ・
- ・

3) 学校自己評価の評価

学校関係者委員会は、本校の自己評価の説明を受け、内容と評価方法を理解した上で、本校が行なった自己評価結果について「適切」「不適切」の2分法にて評価を行い、その理由や意見を「学校関係者評価委員会 記入シート」のコメント欄に記載をおこなった。

本評価シートは、第1回委員会開催時に委員に配布をおこなう。

- ① 自己評価の説明により、評価を頂き提出をおこなう。

令和5年度 学校関係者評価シート 記入例		
自己評価の結果について、ご評価をお願いします。該当に○		
評価者氏名		
基準1 教育理念・目的・育成人材像		
点検項目【1-1】 理念・目的・育成人材像		
評価結果	適切	不適切
自由記述欄（お気づきの点やご要望を記述してください）		

2. 報告書について

2.1 表の見方

自己評価 学内自己評価を取りまとめた結果を表示

(適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、無該当：0)

平成26年度 学校関係者評価報告書					
基準		点検項目		自己評価	学校関係者の評価提言
番号	項目名	番号	項目名		評価に対する今後の取組み
1	教育理念・目的・育成人材像	【1-1】	理念・目的・育成人材像	4	適切に運営されている(100%) ①国際化に対応する人材育成においては、ビジネス英会話だけではなく、英語マニュアルの読み方、英文メールのやり取りなどの学習を入れたほうが良い(橋田委員・身代委員) ②理念・目的では、ないかもしれませんが、現在ではコンピュータが広く使われ、分野も広がっているのですが、是非、何か特化したスペシャリスト(クラウド、ネットワーク、セキュリティなど)の育成を担って頂きたいと考えております。企業側でも、専門分野に強い学生を欲していると思います。(奥村委員) ①28年度英会話Ⅱ(1年次後期)に、「英語マニュアルの読み方」「英文メールのやり取り」の授業を追加する。向で調整してゆく。 ②スペシャリストを目指すカリキュラムについては、各学科について検討をしてカリキュラムに追加をしております。即戦力を目指す本校の理念に基づき、常に企業の動向をウオッチしながら教育をするよう心掛けて参ります。
2	学校運営	【2-2】	運営方針	3	適切に運営されている(100%)
		【2-3】	事業計画	3	適切に運営されている(100%)
		【2-4】	運営組織	4	適切に運営されている(100%)

外部委員の自己評価に対する評価
()内は、外部委員の記入数の比率
外部委員の評価シートより集計

第1回・第2回の委員会での外部委員の
提案及び評価シート記載内容より転記

学校関係者の提言についての、本校の今後の
取り組みを記載。提言の丸付き数字に対応し
ております。

3 . 評価結果報告書

3.1 総 評

本学の取りまとめた自己評価を広く外部の方々から評価していただき、ご意見、ご指摘を受け、さらなる本学の発展に結び付けていくべく令和元年度に学校関係者評価委員会を発足いたしました。発足後、新型コロナウイルスの感染拡大により対面での委員会も難しい中、令和4年度より対面での委員会を再開することが出来ました。委員の方々は、企業、業界から見た本校の取り組み、高等学校から見た本校の取り組み、大学から見た本校の取り組みとそれぞれの立場から本校の取り組みを評価していただき本校の教育活動を充実させていくための様々なご意見を頂きました。委員の方々からの貴重なご意見、ご指摘、情報を学生にとって有益となるよう教育に反映させてく所存です。

学校関係者評価委員会

校長 中澤 三雄

3.2 評価一覧（評価提言・今後の取組み）

基準		点検項目		自己 評価	学校関係者の評価提言	評価に対する今後の取組み
項目名	番号	項目名				
本年度定めた重点項目	【1】	急速なIT化にも対応し得る人材を育成し送り出すため、それに適した教育体制、カリキュラムの検討	3	適切に運営されている メディアリテラシーを踏まえたPCやネットワーク関連の知識習得が重要で本学でも本格的に取り入れる準備をおこなうことが必要であるとの意見がでた。	情報処理系に加え簿記系資格対策授業の本格導入検討とカリキュラムの検討。	

基準		点検項目		自己 評価	学校関係者の評価提言	評価に対する今後の取組み
番号	項目名	番号	項目名			
1	教育理念・目的・育成人材像	【1-1】	理念・目的・育成人材像	4	適切に運営されている 外部への職業訓練などを充実させるべき	
		【1-2】	職業教育の特色	4	適切に運営されている	
		【1-3】	社会のニーズを踏まえた将来構想	3	適切に運営されている	
		【1-4】	学生・保護者への周知	4	適切に運営されている	
		【1-5】	業界ニーズに向けた方向性	4	適切に運営されている	
2	学校運営	【2-2】	運営方針	4	適切に運営されている	
		【2-3】	事業計画	4	適切に運営されている	
		【2-4】	運営組織	4	適切に運営されている	
		【2-5】	人事・給与制度	3	適切に運営されている	士業などの団体に講師紹介を相談、依頼
		【2-6】	意思決定システム	4	適切に運営されている	
		【2-7】	情報システム	3	適切に運営されている	
3	教育活動	【3-8】	目標の設定	4	適切に運営されている	
		【3-9】	教育方法・評価等	4	適切に運営されている	
		【3-10】	成績評価・単位認定等	3	適切に運営されている	
		【3-11】	資格・免許取得の指導体制	4	適切に運営されている	留学生に対する資格試験の点検を行う。
		【3-12】	教員・職員組織	3	適切に運営されている	
4	学修成果	【4-13】	就職率	4	適切に運営されている	
		【4-14】	資格・免許の取得率	3	適切に運営されている	
		【4-15】	卒業生の社会的評価	3	適切に運営されている	より長期の卒業生との関わり合いの検討
5	学生支援	【5-16】	就職等進路	4	適切に運営されている	
		【5-17】	中途退学への対応	4	適切に運営されている	学校カウンセラーの一層の活用
		【5-18】	学生相談	4	適切に運営されている	留学生に対する資格試験の点検を行う。
		【5-19】	学生生活	4	適切に運営されている	
		【5-20】	保護者との連携	4	適切に運営されている	入学者の多様化にともない個別相談の比重に重きを置いてゆく
		【5-21】	卒業生・社会人	3	適切に運営されている	卒業生を招いた資格取得、就職等の講演、説明を活性化させることでより多くの卒業生との交流を図る。

■駿台法律経済アンドビジネス専門学校「学校関係者評価報告書_令和6年度版_8頁

基準		点検項目		自己 評価	学校関係者の評価提言	評価に対する今後の取組み
番号	項目名	番号	項目名			
6	教育環境	【6-22】	施設・設備等	3	適切に運営されている	
		【6-23】	学外実習、インターンシップ等	3	適切に運営されている	
		【6-24】	防災・安全管理	4	適切に運営されている	校外学習などを活用し防災教育の機会を増やす
7	学生の募集と受入れ	【7-25】	学生募集活動	4	適切に運営されている	リカレント対応や業界関係者実務者講習実施などの検討
		【7-26】	入学選考	4	適切に運営されている 一層の多様化にマッチした柔軟な選考が求められる	
		【7-27】	学納金	4	適切に運営されている	
8	財務	【8-28】	財務基盤	4	適切に運営されている	
		【8-29】	予算・収支計画	4	適切に運営されている	
		【8-30】	監査	4	適切に運営されている	
		【8-31】	財務情報の公開	3	適切に運営されている	
9	法令等の遵守	【9-32】	関係法令、設置基準等の遵守	4	適切に運営されている	
		【9-33】	個人情報保護	3	適切に運営されている	
		【9-34】	学校評価	4	適切に運営されている	
		【9-35】	教育情報の公開	4	適切に運営されている	
10	社会貢献・地域貢献	【10-36】	社会貢献・地域貢献	4	適切に運営されている	
		【10-37】	ボランティア活動	3	適切に運営されている 強制するとボランティアではなくなるので、指導が難しい。	2年生の1年生に対するサポートをボランティアとして認められないか検討。

総合評価 【自己評価の確認および次年度重点項目の設定】

本校の自己評価については、学校関係者委員の方から全て『適切に運用されている』との評価を頂いた。委員の皆さまからは企業から、高等学校から、そして大学からと、それぞれの立場から見た本校の取り組みを充実させていくための様々なご意見を頂いた。

質疑応答の中では、本校の取り組みをご理解のうえ、各委員の方々の現場におけるご苦労もお伝えいただき情報交換および情報の共有をすることができた。

各委員から頂戴したご意見、ご指摘のあった点、ポイントがやや低い自己評価項目については、次年度の教育重点項目として、自己点検を実施しながら改善に努めてゆく。

4 . 学校関係者評価委員会議事録

4.1 第1回委員会

会議議事録

会議名	令和6年度 第1回学校関係者評価委員会
開催日時	令和7年2月18日(火) 16:00～17:30 (1時間30分)
場所	本校2階 26号教室
出席者	①企業・有識者委員：松原委員・筒井委員・森委員・山本委員 ②本校委員：中澤三雄(校長)、松本栄(教務部長代理) 事務局：納屋健(教務部長代理) 委員と兼任
欠席	阿部委員
配布資料	☐令和6年度学校自己評価報告書 ☐入学案内書 ☐令和6年度学校関係者評価シート
議題	1.挨拶 中澤校長 本年度本学の取り組みについて説明し、開会挨拶とした。 2.本日の出席者紹介 ①事務局より本委員全員が紹介された 3.本委員会の進め方(事務局) 4.学校自己評価報告 ※校長より自己評価報告書に基づき報告を行い、委員から意見を聞き取り、本校委員がそれに回答する形式で会議を進めた。 5.解散 17時30分

■評価における議事録

基準1 教育理念・目的・育人人材像

中澤校長	社会のニーズにあった人材育成を考える時、事務系人材であっても一定程度の PC リテラシーを身につけた人材を送り出す必要性を認識している。
森委員	同感だ。スマホに比べて PC は未所有の学生が多いため PC 操作への慣れが必要
山本委員	企業でも Microsoft アプリ基本操作はある程度習熟していることが求められている。
松原委員	大学生は学校の PC を使える環境が整ってきており、個人所有率も上がっている。専門学校ではまずは PC 操作に慣れることが重要と思う。
筒井委員	高等学校現場では主に調べ学習用でタブレットが浸透してきている。PC スキル養成までは至っていないのが現状。
検討事項	PC スキルを向上させる科目や授業やカリキュラムの充実 (IT パスポートや MOS 等) が必要

基準2 学校運営

中澤校長	授業計画、組織、情報システムなどは順次更新、改訂をおこなっているが、学生数増への対応ふくめ、教員の若返りが課題。
山本委員	人材不足が慢性化しているのはどの業界も同じなので簡単ではない。
森委員	紹介方式では若返りには限界がある。転職サイトの活用なども検討してみてはどうか。
検討事項	教員採用の新たな手段

基準3 教育活動

中澤校長	教育理念に沿いながら、専門学校の設置目的である実社会で求められる人材育成のため、GPA に対応した 5 段階評価に変更したり、育成すべき人材像や科目ごとの目標を明示したカリキュラム編成を行っている。
松原委員	大学では標準化してきているし、GPA に限らず成績評価やシラバスなど大学標準に近づけてゆく必要はある。
検討事項	特になし

基準4 学修成果

中澤校長	主要な資格試験では宅建合格率は前年よりも下がって約50%。全国平均を上回るものの、問題の難化もあり低下傾向にあり、底上げの必要を感じている。一方で、留学生は簿記試験や行政書士など資格志向が出てきている。次年度からは簿記は全経へ切り替える。
松原委員	大学生、特に法律系では資格取得へのニーズが薄まっている。
山本委員	日商でもよいが全経簿記は留学生には適していると思う。
検討事項	留学生クラスでの資格試験対策の授業強化

基準5 学生支援

中澤校長	講師、クラス担任が連携して就職・進学指導をおこなっている。 不動産、住宅など業界への就職状況は順調。
森委員	学校歴が多様化してきており、日頃のフォローの重要性は増している。
山本委員	留学生の就職サポートについては人数も増えており漏れのないように。
検討事項	業界や大企業、有名大学への実績アップの方策

基準6 教育環境

中澤校長	引き続き、インターンシップは受け入れ先が徐々に広がりつつある。また、校外学習として裁判聴講など、継続して実施している。
筒井委員	教室での授業だけでなく校外学習は貴重な社会経験にもつながるので、今後も続けてほしい。
検討事項	有力なインターンシップ先の確保

基準7 学生の募集と受入れ

中澤校長	日本人学生獲得には web 等の活用プラスアルファが必要。留学生はコロナも明け、堅調に推移している。
松原委員	大学にはない良さが専門学校にはある。それをもっと前面に出してはどうか。
筒井委員	大学に入りやすくなっている、18歳人口の減少という点はマイナス要因
森委員	引き続き社会人の学びなおし（リカレント対応）も検討してはいかがか。
山本委員	関係団体へ直接アピールする方法は難しいということだったが引き続き知恵を絞る必要がある。
検討事項	高校3年生中心の募集戦略からの脱却

基準 8 財務

中澤校長	財務情報の公開は学校法人本部の管轄となっている。私立学校法47条に基づき財務書類等閲覧規定により開示請求できる体制となっている。
検討事項	特になし

基準 9 法令等の順守

中澤校長	引き続き各種ハラスメント、アカデミーハラスメントに配慮が必要。これまでのやり方は通用しなくなっていることを認識しなければならない。コミュニケーションを上手にとることが重要。
松原委員	この世代はコロナのせいで人間関係構築が苦手な世代でもあり叱咤激励の際には注意が必要。
検討事項	特になし

基準 10 社会貢献・地域貢献

中澤校長	千代田区を中心に広報誌を設置したり告知をしているが、引き続きボランティア活動を広く学生に奨励していく。
山本委員	これまで縁がなかった学生も多いのではないか。「特別なもの」という意識が強く、日常的なものにはなっていない。
筒井委員	高等学校では何かのきっかけで、積極的にやるようになる学生もいる。
検討事項	千代田区中心に学業に響かないボランティア活動（学内ボランティアなど）を引き続き検討。

以上